

タッチパネルを利用したメール学習

－自作ソフトによるひらがな文字の学習－

京都市立西総合養護学校 副教頭 富家直樹

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/nishi-y/index/jouhou/siryousyuu/no02/jisakusoft.htm>

キーワード：ひらがな，文字の学習，タッチモニタ，インターネット，電子メール，コミュニケーション

1. はじめに

言葉の理解はほぼできており、視線や動作、音声によって自分の気持ちを一生懸命に伝えようとしている肢体不自由生徒の電子メール活用までの経緯について紹介する。

音声を利用したコミュニケーションについては、ST（言語聴覚士）とも相談しながら指導を進めているが、確実に相手に伝えるためには音声と同時に別の手段（カードや動作など）を用いていく必要がある。また、ひらがな50音のマッチングはできており、ひらがな文字を指さして十数個の事物の命名もできている。音声+動作表現や音声+カードによる日常的な表出性コミュニケーションと平行して、文字盤などを利用したひらがな文字の学習を進めることで、手紙や日記を書いたり、電子メールでのコミュニケーションが可能になると思われる。

2. ITの活用

これまで、一文字の大きさが2cm×3cmのひらがな文字を指さすことで文字の学習を進めていた。しかし、以下のことを考慮し、コンピュータを活用して学習を進めることにした。

- 17インチのCRTタッチモニタが比較的安価（6万円程度）で買えるようになってきたこと。
- 17インチのモニタであれば、生徒に指さしやすい大きさのひらがな文字を画面上に作れること。
- 保護者もコンピュータ機器の利用に熱心であり、本人が使えるのならば、家庭用にもタッチモニタの購入を検討されていること。
- ITを活用すれば、ひらがな文字や単語の学習だけでなく、将来的には、一人で手紙や日記を書いたりできること。
- 文字に残すコミュニケーションだけでなく、電子メールやチャットを活用すれば、リアルタイムなコミュニケーションの補助にも使えること。

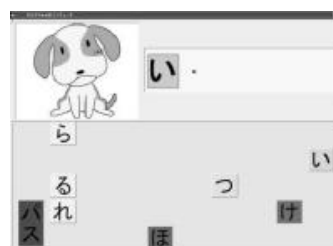
3. ひらがな文字の学習

ITを活用してのひらがな文字の学習については、生徒の課題に応じて細かく修正を加えながら学習が展開できるように、VisualBasicで自作することにした。本生徒用に、これまでに自作したひらがな文字の学習ソフトは以下のようなものである。



①『あいうえおボード』

よくある「あいうえおボード」のパソコン版。画面の”ひらがなボタン”を押すと、そのひらがなで始まる言葉を読み上げ、その絵カードや写真カードが表示される。



②『ひらがなのマッチング』

画面左上に表示される絵カードや写真カードを参考に、ひらがな文字のマッチング学習をする。



③『アナグラム』

文字の並び替えによる音素の組み立て学習。画面に表示されている絵カードや写真カードを見、その右側に、ひらがな文字で書かれている言葉の抜けている文字を答える。



④『ひらがなの学習』

画面左上の絵カードや写真カードを見て、その右側の枠に、ひらがな文字を入力していく。



⑤『ひらがなで文の学習』

画面に表示されている3枚の写真カードを見て、1枚ずつのカードの枠にひらがな文字を入力していく。最後に、指導者が助詞を補い3語文にする。

4. ITを活用してひらがな文字の学習を始めて

ITを活用したひらがな文字の学習を学校で始めてまもなく、本人が「家でもコンピュータでひらがな文字の学習がしたい」という旨の内容を、身振り手振りをまじえてお母さんに伝えたそうである。早速、保護者の方は、家庭用にタッチモニタを購入され、これらのソフトをインストールされた。それから、毎日、家でもコンピュータでひらがな文字の学習をするようになったそうである。ひらがな文字の学習ソフトだけでなく、これまで使えなかった様々なソフトも、タッチモニタを利用して一人で操作できるようになった。

音声+動作表現や音声+カードによる日常的なコミュニケーションの学習と平行して、文字盤などを利用したひらがな文字の学習を進めることで、コミュニケーションの相手や内容が広がりを見せ始めた。これまでは、お母さんや担任、一部の教師にのみ何かを伝えようとしていたが、いろいろな人に気持ちを伝えようとする姿勢が見受けられるようになった。

半年ほど経った頃、保護者の方が参観日に来校された時、「手紙が書きたい」と言ってきたんです。文字に興味をかなり持ってきているのがうれしくて、子供が話した言葉を私が手書きをして手紙を書いているんです。」とおっしゃっていた。学習課題としては、数年後に同じ操作のソフトで一人で手紙を書くとしていた。しかし、本人の意欲を大切にするために、「ひらがなでてがみ」のソフトも作ることにした。ソフトを利用して、お母さんや指導者に支援を受けて、多くの先生や知り合いに手紙を自分で書き、手渡すようになった。



⑥『ひらがなでてがみ』

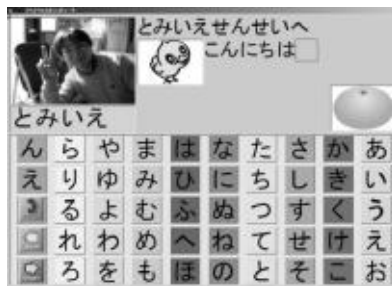
5. 電子メールの利用

お母さんや指導者に手伝ってもらって手紙を送るようになると、返事が返ってくるのを楽しみに待つようになった。電子メールを利用して、返事がもっと早く返ってきたら、もっと嬉しいだろうかと考えた。「いつも ばそこんをつくってくれて ありがとう」と手紙を持ってきたときに、「今度は、お母さんの携帯にメールを送ってみるか？」と尋ねた。笑みを浮かべて大きく頷いた。そこで、「ひらがなでてがみ」と同じ操作で電子メールが送れるようにした。学校から始めてお母さんの携帯にメールを送ったとき、お母さんが送ってきた「きょうの ばんごはんは なにが たべたい？」というメールに対して、「えびふらい」と自分で返信していた。校内で友達同士でとても楽しそうにメールの送受信をするようになり、友達の名前は指導者の支援がなくても間違えず一人でさっと打つようになった。

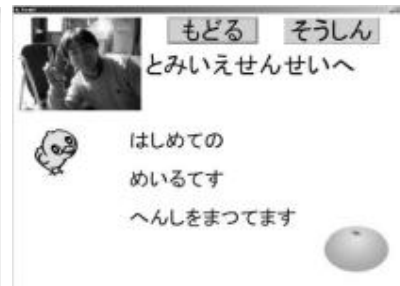
⑦『ひらがなでメール』



メール受信



メール送信①



メール送信②